非核平和事業実施報告

◆原爆パネル展

7月4日（金）から8月19日（火）までの47日間、西方総合文化体育館、都賀公民館、藤岡公民館、岩舟公民館、大平公民館を巡回し、市所有の原爆パネルの展示を行いました。延べ249人の方が来場しました。

◆「戦争」に関する企画展示

8月5日（火）～10日（日）までの6日間、栃木文化会館において、戦争に関する企画展示を行いました。原爆パネル展の内容に加え、「原爆の図　第2部　火、第3部　水、第4部　虹」（原爆の図丸木美術館所蔵）の展示、陸軍軍服、千人針、防空頭巾などの実物資料（埼玉県平和資料館所蔵）の展示、戦争に関するビデオ・DVDの上映などを行い、延べ224人の方が来場しました。

◆戦争体験を聞く会

7月12日（土）、26日（土）、8月9日（土）の3日間、都賀公民館、岩舟公民館、栃木文化会館の3か所で、戦争体験を聞く会を開催し、延べ220人の方が来場しました。

以下は、講師の方・テーマ・講話の概要です。

○大橋晧佑氏「義勇軍から陸軍、そしてシベリア抑留へ」

義勇軍として行った満州からシベリアへ抑留され重労働した体験

○青木美枝氏「広島被爆の体験」

8月6日に爆心地からわずか1.8kmの距離で被爆した体験

○吉田孝子氏「11歳少女の戦争体験」

栃木市内へ疎開した時の体験

○熊倉三朗氏「命を捨てた特別攻撃隊の若者たち～天空より眺むる69年～」

特別攻撃隊として戦死した実兄の貴重な日記を紹介。

○高橋久子氏「被爆体験から平和への思い」

広島で被爆し父を失い戦後も傷跡のために苦労した体験

○田村哲夫氏「戦時下の体験から『平和の大切さ』を知る」

宇都宮空襲直後の市内の状況と自身の機銃掃射攻撃を受けた体験

【来場者アンケートより抜粋】

・戦争の悲惨さは本などで充分理解しているつもりだったが実体験者の話はまた別の面から心に迫るものがあり本日は良い体験ができた。

・命は一つです。命は温かいです。命の大切さ戦争のむごさ、平和の大切さ、永遠に語り続けることの大切さ、心より思います。

・戦争の恐ろしさを痛切に感じております。平和で暮らせるのも犠牲になった方たちのおかげであることを大切に戦没者や先人達に感謝の心を忘れてはならないと思います。

◆広島平和記念式典中学生派遣

8月5日（火）から7日（木）まで、広島平和記念式典中学生派遣団を広島市へ派遣しました。

派遣団長：石嶋栃木東中校長

派遣団員：市立中学校14校2年生各校2名　計28名

1日目：平和記念公園・平和記念資料館見学

2日目：平和記念式典参列、宮島見学、元安川灯ろう流し参加

3日目：千羽鶴奉納、被爆体験講話受講

【派遣団員の活動報告より抜粋】

○平和記念資料館

・資料館で、当時さまよっている子どもの再現模型を見た時には、驚きました。私と同じくらいの歳の子や私よりも小さい子が、皮膚がただれ、衣服はボロボロの状態でさまよっていたからです。どれほど悲惨な状態であったかが伝わってきました。

私は、広島平和記念資料館を見学して、教科書だけでは、きっと学ぶことの出来なかった当時の人々の状態や、命のありがたさについて学ぶことができました。この学んだことを、たくさんの人に伝えていけたらいいなと思います。

○平和記念式典

・テレビでは感じられない、重々しい雰囲気がありました。式典には、内閣総理大臣、広島市長、県知事などたくさんの方々が来ていて、日本の平和への意識が強いのだと改めて感じました。雨の中、参列していた人たちの中でも大半がお年寄りの方々でした。戦争の悲惨さを後世に語りついでくれる方々がどんどん年をとっていく中、僕たち中学生が参列出来てよかった。そして今度は僕たちが受け継ぐ番なのだということを学びました。

○元安川灯ろう流し

・僕は、初めて灯ろう流しを体験しました。何十年もの歴史がある、広島での灯ろう流しは、この先何年経っても忘れないと思います。僕は、灯ろうに「世界の平和を祈ります。」というメッセージを書きました。原子爆弾を落とされた69年前のあのとき、たくさんの人が水を求め、熱さをしのぐため、飛びこんだ。しかし、苦しみ亡くなった人がたくさんいます。そんな川から私たちの願い、あのときに亡くなった人々の願いが世界に届いてほしいと思います。

○千羽鶴奉納

・奉納する場所には数えきれないほどの千羽鶴が奉納してありました。ひとつひとつの鶴にひとりひとり、平和への願いを募らせました。核兵器の廃絶と平和で安心して暮らせる社会の実現の夢を、千羽鶴に託しました。この千羽鶴が被爆された方の心に、はばたいていて届くことを願います。

○被爆体験講話（講師：新宅勝文氏）

・広島では原爆によって、多くの方々の命が一瞬にして奪われてしまいました。講話の中でもたくさんの人が無残な姿で亡くなっていたということをお聞きして、とても悲しい気持ちになりました。命は人が皆、平等に持っているものなのに、それを戦争や原爆によって奪うということは間違いだと思います。原爆によって亡くなられた方々は生きたかったと思います。生きて幸せに暮らしたかったと思います。でも、その気持ちさえも奪ってしまうのが原爆だということを教えていただきました。

○全体の感想

・原爆投下による悲惨な事実、そして、今でもずっと苦しみをかかえて生活している方々がいることを私たちは決して忘れてはいけません。

私達は、広島平和記念式典に中学生派遣団として参加し、広島の原爆について学べたことを光栄に思います。「栃木市非核平和都市宣言」にあるように、二度と同じ悲惨な思いを繰り返すことのないよう、平和の大切さ、安心して暮らせる社会の実現を求めて、行動し、未来を支える子供達に伝えていく為にも、この経験を後輩たちに伝え、他校のメンバーと共に見て、聴いて、学んで共感してほしいです。私は、原爆についてほとんど知らずに、生活していました。こういった機会を与えていただかなければ、他人事で終わってしまったかもしれません。今後も、未来の子供達に伝えていくには、私達派遣団の様なチャンスを与えてほしいと心から思います。

★千羽鶴の作製に協力いただきありがとうございました各中学校で心を込めて作った千羽鶴、パネル展等で市民の皆さんに作っていただいた折鶴は大切に原爆の子の像に捧げてきました。協力くださった皆さん、ありがとうございました!!

★8／25報告会開催

今回の派遣で学んだことや感じたことを発表しました。一般公開し、市民の皆さんも参加しました。

今後、派遣団員の皆さんは、各校の学校祭などで校内発表し、全校生徒に派遣活動について広めることになっています。

11月は「子ども・若者育成支援強調月間」

近年、子どもや若者をとりまく環境が大きく変化しています。情報化社会の進展により、氾濫する有害情報で事件にまきこまれたり、「ネットいじめ」などという以前とは異なるいじめが起きたりしています。また、景気の悪化により非正規労働をせざるを得ない若者、いわゆるニートの数が依然として高い状態にあり、子どもや若者が未来に夢を抱けずにいます。一方、従来から問題視されていた児童虐待やいじめについても、痛ましい事件が続いています。

このような中で、青少年が新しい時代の担い手として、その個性や能力を最大限に発揮して、健やかにたくましく成長していくには、家庭、学校、地域、職場などの地域社会全体で行動していく必要があります。

この時期にもう一度、青少年の健全育成について考え、具体的な活動を実践しましょう。

1．毎月第3日曜日「家庭の日」を推進しましょう

家庭は、青少年が、基本的な生活習慣や社会における規範意識の基礎を身につけるなど、人間形成に大きな役割を担う場所です。「家庭の日」には、家族みんながが顔を揃えてふれあいを育みましょう。普段機会が取れない方も、家族そろって食事を取ることなどから始めてみてはいかがでしょうか。

2．子どもたちを有害環境から守りましょう

インターネットは、素早く、幅広い情報が得られる便利な手段ですが、犯罪・暴力・過激な性などの有害な情報に接する機会にもなります。子どもたちが無秩序にこれらの情報に触れることのないよう、フィルタリングサービスを利用しましょう。使い方について親子で話し合ってルールを決めるのもよいでしょう。

3．「声かけ運動」を推進しましょう

子どもは社会全体で育てていくものです。地域の子どもたちの成長に目を向け、出会った時にはあいさつを心掛けましょう。また、可能な範囲で地域の行事にも参加し、地域での繋がりを育てましょう。

★　★　★

◎模範児童生徒を表彰します

栃木市青少年問題協議会では、地域行事等に積極的に参加し、より良い社会づくりに貢献している子どもたちを応援するため、模範児童生徒を表彰します。

◎困った時には青少年育成センターへ

心のこと・身体のこと・家族のこと・「誰にも言えなかった」心配なこと・困っていることなど、ひとりで悩まず相談してください。相談内容の秘密は、厳守します。

◆相談日：毎週月～金曜日9時～17時

◆相談先：青少年育成センター（市役所本庁舎内）☎23-6566

～子どもたちを　育てよう健やかに　支えようみんなで～